ジ・アニメ 3月号 昭和58年3月1日発行(毎月1回1日発行)第5巻第3号通巻51号 昭和55年2月2日第3種郵便物認可 昭和56年12月22日国鉄首都特別扱承認雑誌第5997号

ジ・アニメ

600yen

3

公開迫る!! 春の劇場用大作アニメ

★クラッシャージョウ★宇宙戦艦ヤマト完結編
★幻魔大戦 ★うる星やつら

宇宙戦艦ヤマト
表紙作画/高橋信也



豪華2大付録
1 マッドマシーン 2 マクロス
★大型ポスター
★特製シール
クラッシャージョウシール

春の新作アニメ特集
「ジョージィ!」「愛してナイト」「ボトムズ」他

＋モモが交通事故死?
ミンキーモモ総集編

◎アニメモリアル/ルパン三世
なぜ、いま、またルパン三世なのか?

↓超時空要塞マクロス
「ぬえ式ストーリー料理法」

♥バレンタイン特集♥女の子から男の子へ

ジ・アニメ ●毎月10日発売 3月号 vol.40

CONTENTS


▲クラッシャージョウ

表紙 宇宙戦艦ヤマト完結編／作画 高橋信也

引き出し レディ・ジョージィ……3
クラッシャージョウ……6

カラー特集

春休み劇場用アニメ特集「クラッシャージョウ」「宇宙戦艦ヤマト」「幻魔大戦」他……9

「超時空要塞マクロス」……36

春の新作アニメ特集 「ボトムズ」他……41

「魔法のプリンセス ミンキーモモ」総集編……57

なぜ、また、いま「ルパン三世」か？……89

「スラングル」キャラクター全分析……50
「綿の国星」パイロット・フィルム紹介……54
「ダーククリスタル」観賞記……石森章太郎他73
バレンタイン特集！女の子から男の子へ……80
アニメトピア……84
好評連載第3回「ゴキブリッコ純情」……86
チャレンジ・シリーズ第7回「イメージ・トレーラーフィルムを作ってみませんか？」
例題は好評「ガンバル5」……105
ドン・上野マスコミランド……ゲスト・西崎義展121
ミッチのバラエティトーク……ゲスト・ちばあきお126
エル・ジグラード……原作・山本優130
アニメ人間インタビュー……ゲスト・出崎統132
今月のテレビアニメーション……137
全国テレビ・アニメガイド……154
アニメ情報パック……156
TV・BREAK……162
キョロとタロウのNOW・TIMEジョッキー……亜室黎164
声優入門……勝田久166
マイプラザ……169
ファンテール……ふくやまけいこ180
星占い……184
アニメフリーク・インフォメーション……185

第1付録 ポスター Ⓐマッドマシーン Ⓑマクロス（ミンメイ）

第2付録 クラッシャージョウシール

from EDITORS

春のアニメ戦争の口火を切って、明日（11日）から『うる星やつら』が公開される。

人気の高いこの作品が先鞭を取り、これに続く『クラッシャージョウ』『宇宙戦艦ヤマト』『幻魔大戦』と一気に走り込めば今年もアニメ界はバン万才！というわけだが…問題はその後、ラインナップを見ても劇場用の大作がほとんど上がっていない。

例年ならばすでに夏休み作品、暮の作品のラインナップが決定している頃で、アニメファンにとっては、期待に胸をふくらませる頃だというのに……なんともさびしい。

そんな中で西友ストアー（関東では大手のスーパーマーケット）が西ドイツ、スペイン、イギリスなどの製作会社と提携し、日本では日本アニメーションがそれにたずさわり『不思議の国のアリス』『八十日間世界一周』などを発表。総製作費40億円という莫大なお金をかけ、アニメ界に進出するというニュースもあり、諸々の事情を考え合わせると、今年はアニメ界も新しい転機というか、新しい展開期を迎えるような気がする。じっくりと見つめよう！

協力＝NHK・日本テレビ・フジテレビ・テレビ朝日・テレビ東京・名古屋テレビ・よみうりテレビ・コロムビアレコード・キングレコード・ビクターレコード・キャニオンレコード・東映・東宝・松竹・東宝東和・日本ヘラルド・東映動画・東京ムービー新社・東京ムービー・日本サンライズ・竜の子プロ・日本アニメーション・エイケン・ウエストケープコーポ・国際映画社・青二プロ・バオバブ、他

昭和58年3月1日発行（毎月1回1日発行）第5巻第3号
通巻51号 昭和55年2月2日第3種郵便物認可
昭和56年12月22日国鉄首都別承認雑誌第5997号
発行編集人・小杉修造
発行所・㈱近代映画社 定価600円（送料95円）
〒105 東京都港区西新橋2の7の4 第20森ビル9F

■レイアウト＝松山昴司・岡本明彦・三小田典子
■写植＝㈱三友社 ■印刷＝大日本印刷株式会社

〔お詫び〕 前号『情報パック』の中で『マクロスBOOK』プレゼントの問い合せ先、今井科学のTEL番号を0542－81－4516と記しましたが、0542－61－4516のあやまりで、このため81局の天野工業様に多大な御迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げ、訂正いたします。



「E・T」を超えた心踊る想像の世界

遂にここまで来た映像テクニック！科学の助けを借りた夢見たがり屋たちが作り上げた〝ロボットロニクス〟が、人形たちに血流を流し込んだ。それはまさに映画のルネッサンス！さあ、「E・T」すら超えてしまったSFロマンの世界に向けて、いっせいに旅立とう！！



3月中旬公開予定
（CIC配給）**文・清藤秀人**

THE DARK CRYSTAL

ダーク
クリスタル





●物語

水晶が割れて光を失った時、1000年の地獄が始まった

そこは時間を超えた世界。すべては水晶の不思議なパワーの下で光り輝いていた。ところが地震によって割れた水晶は光を失い、〝ダーク・クリスタル〟となり、暗黒の世界は邪悪な種族スケクシスに支配され、荒廃の一途をたどっていた。

だが、妖精ゲルフリング族の逆襲を恐れるスケクシスは、どう猛な部下ガーシム族にゲルフリング抹殺を命令し、独裁体制を確立しようとしていた。

一方、ゲルフリング族の生き残りである少年ジェンは、温和な部族ウール族に助けられ、ジェンの育ての親ウール・マスターは死ぬ間際「水晶のかけらを探し出し、3つの太陽がひとつに重なる前に、それを元の場所に戻すことがお前の使命だ」とジェンに言い残した。それに失敗すれば、2度とこの世に平和は帰って来ないという。ジェンは勇気を持って、その冒険旅行に旅立つのだった。

奇妙な生物の数々が待ち受ける大地を通り抜け、ジェンは天文学者オーグラの天文台にたどり着いた。そこで水晶のかけらを発見した時、スケクシスの使者ガーシムが突如現われ、ジェンはかろうじてその場を逃れ、不気味な沼に落ち込んだ。恐怖に震える彼の目の前に現われたのは、ゲルフリングのもう一人の生き残りである少女キアラだった。

キアラに案内されて、優しいポッド族との幸福な日々を送るうち、大切な使命を忘れかけたジェン。しかし、ある日ゲルフリング族の廃墟を発見し、そこの壁画に刻まれた水晶の重大な意味を知ったジェンは、再び使命のために立ち上がる。

時間はもうない。キアラと共にスケクシスの城に潜入するジエン。宿敵の接近を知ったスケクシスは、是が非でも2人を抹殺しようとする。ダーク・クリスタルの頭上で、3つの太陽が重なり合おうとしていた……。



れた国へ行きます。(石森氏)

●漫画家・石森章太郎氏

不思議な映画ですね。キャッチフレーズがすぐに浮かんだんですが、「スターウォーズのヨーダとE・T・の生まれた国へ行きます!」と。第一印象としては、日本のファンタジーはフワッとしたマシュマロみたいですがむこうのはケーキ…ケーキでもデコレーションケーキ風のいろんなものがつまっている…日本とむこうのファンタジーの質の違いというのを感じました。昔だと、日本にはどうかなという気もしたけど、今だったら日本の体質にもあっているし、話としてはファンタジーだけど日本のアニメファンが見るとおもしろいだろうし、またアニメファンが見ると思うし、そういうアニメファンがこの映画を見て、アニメよりおもしろいものがあると、アニメを離れるんではないかと思いますね。技術的には、E・T・やヨーダの動きに今まで疑問をもった観客が多かったわけですけど、その疑問をさらに大きくしたというか。ロボットロニクスにしてもそういうものを自由自在に使えるというのはうらやましいですね。日本でこういう企画を出しても絶対に通らないだろうし、むこうの映画ならではという感じでうらやましいです。ボクもやってみたいです。アニメとはまた異質のもので、同じ手作りにしても随分違いますが、逆にアニメ作家としては、もっとアニメでもいろんなことができるはずなんでもっと手の込んだことや観客がアッというようなことを日本でも早く実現できるようにがんばりたいですね。

●人形アニメ作家・川本喜八郎氏

とにかくあのジム・ヘンスンがほんとに好きなことをお金をかけて自由にやったという感じですね。セサミストリートとか、マペットとかで成功してポピュラーにもなったし、それまで育ててきたスタッフも揃ったし、前々からやりたかったことをやれたという喜びに溢れている映画ですね。美術的、テクニック的にも破綻がどこにもないですね。キャラクターの造形はすばらしいですね。誰にでもできるものではないですよ。あれは彼のファンタジー。彼が個人的に最大限好きなことをやったという気がして、そういう意味ではうらやましいですね。ああいう興味、欧米はとにかくあの手のことが好きですね。指輪物語にしてもそうですが、グロテスク趣味、徹底的にやったところ、善にしろ悪にしろ。人形の頭のつなぎ目とか完璧に近い。でも僕の考え方と根本的に違うのは、どれだけ人間に近く動かすことができるかということをジム・ヘンスンがやりたかったということですね。日本では文楽などにしても、人形は人形、人間とは全く別のもので人形独自の生命を吹き込むことでリアルに動かす…考え方が基本的に違うという気がしますね。

●プロデューサー・笹川ひろし氏

あんな映画がつくられていたなんて、とにかくびっくりしましたね。技術的にもいままでのものより数段おもしろいし、日本だとあやつり人形とかいろいろ区別しているけど人形と人の境界線がないところに興味が湧きましたけど、人形に人間があわせていくというか複雑な心境にもなりました。森の場面の植物がおもしろかったですね。僕らの想像を超えているのにリアリズムがあって。日本のアニメに比べると時間と制作費…スケールの差というものを思い知らされましたし、毎日忙しく仕事に追われていると、感性がノーマルになってくるというかそういう意味でも今度のダーク・クリスタルはよい刺激剤になりました。こんなものもあるということを念頭において仕事していきたいですね。



●解説

人形を動かすメカに拍手して ストーリーの雄大さに大感激

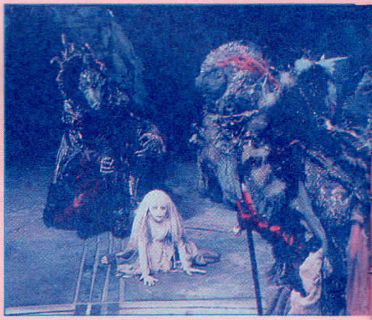
イマジネーションを映像化するための最も大胆な手段はアニメーションだと、今までは思っていた。ところが、この作品の信じ難い幻想の世界に案内してくれるのは人形たちなのだ。つまり、ここではアニメや特撮を一歩前進させたライブ・アクションが主役であり、それが全く不自然さを感じさせることなしに見事なSFアドベンチャーに仕上がってしまっている。これはもう奇跡と呼ぶしかない。

魅力あふれる数々のキャラクターの生みの親は、TV「マペット・ショー」（日本ではテレビ朝日が放送したが不運にも低聴率に泣いて消滅した。残念）で、カーミットやミス・ピギーを世に送り出したジム・ヘンスン。そして、彼をサポートしたのが「スター・ウォーズ／帝国の逆襲」で仙人ヨーダを担当したフランク・オズ。ヘンスンのユーモアとオズのリアリティが合体して、人形使いの歴史が一挙に10年先までスッ飛んでしまったかんじだ。もちろん、人形及び風俗のデザインを手掛けたイラストレーター、ブライアン・フラウドの天才的イメージも無視できない。

彼らスタッフの情熱が生んだ悪徳スケクシスの恐怖の晩さん会に見るデカダン、ウール族の悲しみをたたえた大合唱、ジェンのキアラのシンプルではあるがこの上もなくピュアな表情etc。それらは、一度見たら忘れられない程ミステリアスでエモーショナル。「E・T」の感動なんて、昔の出来事のようだ。

そして、クリスタルのひとかけによって善と悪が対立してしまった世界を救うのは、若く純粋な者だけが持つ勇気と愛情のパワーだったとは、何と普遍的で説得力のあるテーマではないか。これこそが、この作品の持つ真髄である！





THE DARK CRYSTAL ■ヨーダとE.T.の生



●アニメーター・鈴木伸一氏

ストーリー、テクニック的には、随分凝った作品だなあという感じでしたネ。指輪物語に似てるし、アニメ好きの人がきっとスタッフの中にいるんでしょう。僕はディズニーが大好きでよくみているんですが、年寄りの動物、森の中の世界、そしてラストシーンもディズニー的ですね。

技術面では今のいろんなものがはいっていて、コンピュータとか科学が駆使されていて、映像のトリックもうまく使ってあるし、今からの映像にはかかせないものでしょう。でも手作りのよさとは全く次元は違いますしさびしい気もしますね。まあいままで日本にはなかった何ともいえない不思議な世界ですからね。日本にはああいった下地がないですから、異質な感じがするかもしれませんね。E・T・というのは現在の世界でこれは全くノンフィクションでつくられた世界…ファンタジー、こわいグロテスクな動物も出てくるし、まあそれが、風刺的というか、主人公の男の子と女の子(?)の描き方もいろんな意味を含んではいるんでしょうけど。

●アニメーター・影山楙倫氏

まずビックリしました。日本ではまずできないというか。僕が一番気にいったのは愛着というか、ていねいというか、キャラクターひとつひとつにスタッフの思い入れがあるし、そして色ですね。アーサー物語もそうでしたが、ラストの緑に変るところなど色調…特に石の色など日本と根本的に違いますしね。全体的にみて、本格的世界づくりという点でもたいへんおもしろく、植物の造り方も想像力が豊富でごまかしが全くないし、制作スタッフの意気込み、パワーが感じられました。アニメーションもあのくらいのスタッフのパワーがあればと思いますね。時間の関係もありますが、もうひとつ自分達の世界づくりのイメージの貧困さを感じたし、自分達のつくるものに対する執着がなければと思いました。キャラクターづくりにしても執着、作品の世界とのかかわりとを大事に、そしてアニメと同じでゼロから出発しているので動かしかたも考えていきたいですね。とにかく大人も子供も楽しめる作品ですから、素直に見て、自分の感性をのばしてほしいですね。

●日本テレビディレクター・矢追純一氏

今までになかったファンタジーとして面白いと思いました。テクニックとしては、いったいどうやって動かしているのかわからない程精密で、鳥になった悪玉とトカゲみたいな善玉の、それぞれの表情が実に細かく伝わって来るのには驚きましたネ。全体的には気持ち悪さの連続で、そういう意味ではディズニーと正反対に位置するものだと思います。だから、ディズニー映画にあきたらない少年たちは喜ぶんじゃないかな。



クリスタル・パワーを再び呼び戻すため危険な冒険旅行に出かける最後の切り札ジェン。そして、彼をバックアップするキアラ。２人の清純な愛が、大地に緑の輝きをもたらす!!



THE DARK CRYSTAL



人間以上の表情がたまらない これが話題のキャラクターだ



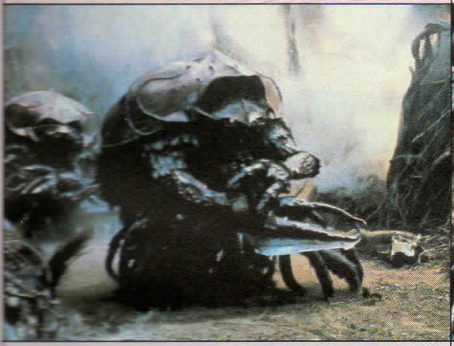
キアラにピッタリくっついて離れない可愛いペット、フィズギグ。



森の奥深く楽園を築いて暮らすポット族。キアラを育てた温和な彼らが悪の犠牲に。



水晶のかけらの秘密を知る天文学者オーグラ。取りはずし自由の眼球がユーモラス。



スケクシスがゲルフリング抹殺のために派遣するガーシム戦士。まるでカブト虫？



スケクシスの帝王（左）と家臣たち。強いわりにはゲルフリングの逆襲に恐れおののく。



悪漢スケクシスの跡目争いに破れ、巻き返を計るしたたかなチェンバレン。



ウール族とスケクシスが合体して誕生する水晶の精こそ、この世の平和のシンボル！



ジェンとキアラを乗せてひた走る足長動物ランド・ストラクター。



ジェンに最後の望みをたくして息を引きとるウール族のマスター。その優しい表情。